Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-09-05

看護の今日的課題（トピックス 看護婦諸問題の根源に迫る）

上羽, 康之

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌, 7:148-148

(Issue Date)
1991-06

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007200

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007200

トピックス——

看護婦問題の根源に迫る

フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで今年初めて「看護の日」が5月21日に制定され、東京日比谷公会堂で皇后陛下の御臨席のもとに記念式典が行なわれた。

看護婦の人手不足が深刻化している中に、高齢者介護への理解を深める目的も含めて『看護の日』が一般の人々にも理解を深めるために制定されたものと思われる。

さて、この看護の婦問題の根源に迫り、神緑会員として如何に考えるかの手がかりを得る目的で、神戸大学医療技術短期大学部部長上羽先生のお手数を煩わせ、各方面のエキスパートに執筆をお願いした。日常診療の中で看護業務の見直しや現状打開の一助としたい。　　(編集委)

看護の今日的課題

神戸大学医療技術短期大学部部長　上羽康之

はじめに

近年、医療の目的が単に疾病の予防、治療、及び社会復帰へのリハビリテーションから、さらに健康の維持、増進へと拡大されると共に、その担当専門職種は医師を中心として、薬剤師、看護婦（士）、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士が、さらに臨床工学技士、義肢装具士など、新しい資格制度が設けられ、今後も拡大、細分化される傾向にある。これらの多くの専門職種により、それぞれの専門性が駆使され、各分野における特殊技能の実施と統合があって、より完璧な医療の成果があげられつつあるが、我が国の高齢化社会の到来、乳幼児死亡率の急激な低下は、その表れであると理解される。このように素晴らしい成果があげられつつある医療の現場において、看護職は患者に最も長時間接し、心身の病態に関する情報を、豊富かつ詳細に収集し得る立場にあり、患者に対する Bio-Psycho-Socio-Ethical approach、すなわち、全人的立場からの医療の重要な役割を担っているといえる。最近のプライマリーナース制、専門看護婦の設置は、その目的にそった対応であり、さらに高齢化社会に対する地域看護、老人看護の要望に基づいて、昨年、指定規則が改正された。

このように現代社会において、看護職の果たす役割が重視され、その担当領域の拡大と共に、すぐれた資質を有する人材の育成が、益々要望されるとき、看護職希望者が漸減し、さらに毎年、各種教育機関の努力により5万人以上の有資格者を社会に送り出しているにも拘らず、慢性的に不足状態をきたしているのが現状である。その対策として、看護職のイメージアップ、職務内容に対する処遇、ならびに労働条件の改善、看護婦育成の拡大と助成の強化、ナースバンクの機能の拡充などがあげられている。また一方、本年より5月12日がナイチンゲールの誕生日であることから、看護の日と決め、看護に関する催物、教育機関の紹介等が企画され、実施されているが、このような情勢下にあって、医療の core として活躍しておられる諸先輩が、神緑会誌の本年のテーマとして看護婦問題をとりあげられたことは、誠に当を得たものと思われる。そこで看護問題について、種々の異なった立場から医療に参画しておられる方々からご提言を戴いた。

今後、益々拡大されるであろう医療と、その背景にある諸問題に対して、今回の各位のご意見が、何らかの参考になり、将来への曙光となることを切に願うものである。